

国体準備委員会第5回常任委員会  
平成27年5月27日決定

## 第75回国民体育大会開催基本構想



平成 27 年 5 月

第75回国民体育大会鹿児島県準備委員会

# 目 次

<b>第 75 回国民体育大会開催基本構想の策定に当たって</b> . . . . .	1
---	---

## **第 1 章 国民体育大会(国体)について**

1 国体とは . . . . .	2
2 国体の歴史 . . . . .	3
3 国体を巡る課題と改革 . . . . .	3
4 鹿児島国体の開催意義 . . . . .	4

<b>第 2 章 基本目標(鹿児島が目指す国体)</b> . . . . .	5
--	---

## **第 3 章 基本目標を実現するための取組**

1 県民が夢と希望を持ち心に残る国体 . . . . .	6
(1) 県民総参加の取組	
(2) ボランティアの育成	
(3) 開催気運の醸成	
(4) 低炭素化及び環境への配慮	
2 スポーツの普及・振興を図る国体 . . . . .	8
(1) 地元選手の育成	
(2) 総力を結集した「チームかごしま」	
(3) 国体を契機とした継続的なスポーツ振興	
(4) 障害者スポーツの普及と環境整備	
3 簡素・効率化を図る国体 . . . . .	10
(1) 既存施設等の有効活用	
(2) 総合開会式・閉会式の創意工夫	
(3) 幅広い募金活動の展開や民間企業とのタイアップ	
(4) ボランティアの協力	
(5) 全国障害者スポーツ大会の開催	
4 鹿児島の魅力を発信する国体 . . . . .	11
(1) 心のこもったおもてなしや交流の促進	
(2) 広報活動の推進	
(3) 観光関連団体等との連携	
(4) 文化プログラムの充実	
5 東京オリンピックイヤーにふさわしい国体 . . . . .	12
(1) 鹿児島県選手の活躍・支援	
(2) 東京オリンピックとの連携	
(3) 東京オリンピック選手の国体への出場や参加	
(4) 東京オリンピックの展示ブースの設置	

<b>第 4 章 「力みなぎる・かごしま」の実現に向けて</b> . . . . .	13
--	----

## 第75回国民体育大会開催基本構想の策定に当たって

鹿児島県では、平成32年（2020年）に第75回国民体育大会が、昭和47年（1972年）の第27回国民体育大会（太陽国体）から48年ぶりに開催されます。

太陽国体では、「明るく、たくましく、うるわしく」をスローガンとして開催し、天皇杯・皇后杯を獲得した本県選手団の活躍や県民総参加で大会を支えた誇りと自信は、明るく豊かな鹿児島を築く原動力となり、国体開催を契機に、インフラやスポーツ施設などハード面の整備が進められるとともに、スポーツ振興体制及び競技団体等のスポーツ組織などソフト面も確立されました。また、国体を成功させるために県民の総力が結集され、郷土意識の高揚や地域の活性化にも寄与し、その後の県勢にも大きな影響を与えることができました。

平成32年には「2020年東京オリンピック競技大会」の開催が決定されており、国民のスポーツに対する関心が一層の高まりを見せる中で迎えることになる第75回国民体育大会は、本県が持つ多彩な魅力を全国に発信するとともに、明るく豊かで「力みなぎる・かごしま」づくりにつながるよう、県民が夢と希望を持ち、心に残る大会を目指し、県民総参加のもと、鹿児島らしさを生かした大会として開催します。

この開催基本構想は、「第75回国民体育大会開催基本方針（平成23年8月9日第75回国民体育大会準備委員会第1回総会決定）」に基づき、今後の大会開催に向けた準備及び大会運営に係る指針となる基本目標と、その実現に向けた様々な取組の方向性や考え方を明らかにするものです。

# 第1章 国民体育大会（国体）について

## 1 国体とは

国体は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにすることを目的として、毎年開催されている国内最大のスポーツの祭典です。

国体は正式競技の男女総合成績第1位の都道府県に天皇杯を、女子総合成績第1位の都道府県に皇后杯を授与する都道府県対抗により行われます。

国体で実施する競技は、「正式競技」のほか、「特別競技」、「公開競技」、開催地都道府県民を参加対象とする「デモンストレーションスポーツ」があります。

### 【第75回国民体育大会（鹿児島国体）における実施予定競技】

競技区分		競技等
正式競技 (37競技)	毎年実施競技 (36競技)	陸上競技，水泳，サッカー，テニス，ボート，ホッケー，ボクシング，バレーボール，体操，バスケットボール，レスリング，セーリング，ウエイトリフティング，ハンドボール，自転車，ソフトテニス，卓球，軟式野球，相撲，馬術，フェンシング，柔道，ソフトボール，バドミントン，弓道，ライフル射撃，剣道，ラグビーフットボール，山岳，カヌー，アーチェリー，空手道，なぎなた，ボウリング，ゴルフ，トライアスロン
	隔年実施競技 (1競技)	銃剣道
特別競技 (1競技)		高等学校野球（硬式・軟式）
公開競技 (5競技)		綱引，武術太極拳，パワーリフティング，ゲートボール，グラウンド・ゴルフ
デモンストレーション スポーツ		県内居住者を対象とし，ビリヤード，スポーツチャンバラ，ソフトバレーボール，アクアスロン，ドッジボール等を実施 ※ 第69回国民体育大会（長崎がんばらば国体）の例

## 2 国体の歴史

---

国体は、戦後の荒廃と混乱の中で、スポーツを通して国民に勇気と希望を与えようと、昭和21年（1946年）に京都府を中心とした京阪神地区で第1回大会が開催されました。

以来、各都道府県の持ち回り開催となり、国内最大のスポーツの祭典として、歴史的、文化的に国民スポーツの普及や競技者・指導者の育成、スポーツ施設の整備、スポーツ組織の充実など、スポーツ振興体制の確立とスポーツ文化の形成に貢献してきました。

## 3 国体を巡る課題と改革

---

第1回大会が開催されてから半世紀以上が経過する中で、スポーツレベルの向上と国際化に伴い、トップアスリートが国際大会に関連する大会への出場を重視し、国体への参加を見送る例が見受けられました。また、長期的な経済の停滞により、地方自治体の財政状況が厳しさを増す中で、開催都道府県・市町村に求められる人的・財政的な負担が大きな課題となるなど、国体開催を巡る環境は大きく変化しています。

このような状況を踏まえて、公益財団法人日本体育協会（日体協）では、平成15年（2003年）3月に「新しい国民体育大会を求めて～国体改革 2003～」を策定し、国体の諸問題に対する抜本的な見直しや改善を図ることになりました。具体的には、ふるさと選手制度の導入や女子種別及び中学3年生参加競技の拡充などの「大会の充実・活性化」、夏季・秋季大会開催の一本化や参加人員の見直しによる大会規模の適正化などの「大会運営の簡素・効率化」を二本柱として取り組みました。

こうした改革により一定の成果をあげる一方、「国体改革2003」の策定から10年が経過し、新たな課題も指摘されるなど、国体の全般的な検証の必要性が指摘されるようになりました。そのため、国内外における社会情勢の変化、新たなスポーツ界の動向等を踏まえ、平成25年（2013年）3月には「21世紀の国体像～国体ムーブメントの推進～」を取りまとめ、少年種別（ジュニア世代）の充実や各競技会の実施規模等の見直しにも取り組んでいます。

なお、平成32年（2020年）に開催される東京オリンピック競技大会（東京オリンピック）の競技種目になっている10種目（9競技）について、一定の導入条件を充たしたものを新たに国体の正式競技として実施することになっています。

## 4 鹿児島国体の開催意義

---

鹿児島県は、南北 600 キロメートルに及ぶ温暖で広大な県土を有し、特色ある島々、桜島等の火山、緑あふれる森林、豊富な温泉など、多彩で豊かな自然と個性ある歴史・文化、多様な食材などに恵まれており、国体開催は「本物。鹿児島県」の魅力为全国に発信する絶好の機会となります。

鹿児島国体と同年に開催される東京オリンピックにおいて、より多くの本県にゆかりのある選手が活躍する姿は、県民に夢と希望を与え、その後の鹿児島での国体は、オリンピックの感動を再び呼び起こすことが期待されます。また、東京オリンピックメダリストの鹿児島国体への出場や参加を積極的に求め、オリンピック開催年ならではの鹿児島国体になることを目指します。

各都道府県の選手団や大会関係者をはじめ、本県を訪れるすべての方々を、県民総参加のもと、心のこもったおもてなしでお迎えします。さらに、本県の持つ豊かな自然環境や個性ある歴史・文化、多様な食材など「本物。鹿児島県」の感動を体験していただける国体の開催は、本県にとってスポーツを通じた健康で活力に満ちた地域社会づくりにつながるものであり、「力みなぎる・かごしま」、「日本一の暮らし先進県」の実現に大きな原動力となることが期待されます。

## 第2章 基本目標（鹿児島が目指す国体）

### 基本目標

### 「力みなぎる・かごしま」の多彩な魅力を全国に発信する国体

平成32年の鹿児島国体において、県民総参加のもと、鹿児島らしさを生かした国体となるように「『力みなぎる・かごしま』の多彩な魅力を全国に発信する国体」を基本目標として定めます。また、基本目標の実現に向けて、次の5つの項目を大きな柱として様々な取組を行います。

#### 1 県民が夢と希望を持ち心に残る国体

県民が国体開催に向けて総力を結集し、相互の連帯感や郷土意識を高めるとともに、環境に配慮した大会運営を行い、国体後も明るく豊かで力みなぎる鹿児島づくりにつながる夢と希望のある大会を目指します。

#### 2 スポーツの普及・振興を図る国体

国体を一過性のスポーツイベントに終わらせず、国体開催を契機として県民の積極的なスポーツ活動への参加やスポーツ水準の向上など、広くスポーツを普及・振興し、県民の健康増進や体力向上を図るとともに、スポーツを生かした地域づくりを推進します。

#### 3 簡素・効率化を図る国体

近年の経済状況や日体協が進める国体改革の趣旨等を踏まえ、県内の既存施設の有効活用やボランティアスタッフによる協力など大会運営の簡素・効率化を図り、人的・財政的負担が過重にならないよう配慮します。

#### 4 鹿児島の魅力を発信する国体

鹿児島のすばらしさを感じることでできるような心のこもったおもてなしをするとともに、美しく雄大な自然や豊かな食文化、先人より受け継いできた文化や伝統など、鹿児島の誇れる魅力を全国に発信します。

#### 5 東京オリンピックイヤーにふさわしい国体

国民のスポーツに対する関心が一層の高まりを見せる中で迎える国内最大のスポーツの祭典として、東京オリンピックイヤーにふさわしい鹿児島国体の開催を目指します。

## 第3章 基本目標を実現するための取組

### 1 県民が夢と希望を持ち心に残る国体

#### (1) 県民総参加の取組

- ・ 開催競技（正式競技，特別競技，公開競技，デモンストレーションスポーツ）を離島を含めた県内各地域で開催し，県民の鹿児島国体への参加機会をより多く設けるとともに，ボランティア活動や県民運動などの様々な取組を展開し，県民総参加の取組を推進します。
- ・ 競技会場や沿道，街並みなどを花いっぱいに彩るとともに，地域や学校などで，手づくりののぼり旗や案内看板などを作成するなど，来県者を心のこもったおもてなしでお迎えます。
- ・ 子どもからお年寄りまで，多くの県民が参加できる<sup>きよか</sup>炬火イベントとなるように，創意工夫を凝らして開催します。

#### (2) ボランティアの育成

- ・ 学校やNPO法人，企業，各種団体等と協力し，ボランティアの育成に努めます。
- ・ 共生・協働による温もりのある地域社会づくりの一環として，ボランティア活動を促進するなど，県民がボランティアとして鹿児島国体に参加しやすい環境づくりに努めます。

#### (3) 開催気運の醸成

- ・ 鹿児島国体の開催意義を広く県民に周知するため効果的な広報活動を実施し，鹿児島国体への参加意識の高揚を図ります。
- ・ 鹿児島国体を象徴し，広く県民に愛されるような愛称やスローガン，マスコット等を制定し，その普及を図ることにより，鹿児島国体開催の気運を醸成します。
- ・ 鹿児島国体開催までの節目において，啓発イベントを開催するとともに，県民運動や各種イベントと連携した広報活動を実施します。



(4) 低炭素化及び環境への配慮

- ・ 大会関連施設・設備の整備に当たり、省エネ製品の導入など低炭素化を進めるとともに、マイカー自粛や公共交通機関の利用促進、再生可能エネルギーの活用など地球にやさしい国体を目指します。
- ・ グリーン購入など環境に優しい製品の利用を推奨し、できる限りゴミ等の廃棄物の発生を抑制するなど、人と地球にやさしい国体運営に努めます。
- ・ 省資源・省エネルギーに努め、リユースやリサイクルなど3R（Reduce「発生抑制」、Reuse「再使用」、Recycle「再生利用」）を推進します。

## 2 スポーツの普及・振興を図る国体

### (1) 地元選手の育成

- ・ 開催県として天皇杯・皇后杯の獲得を目指し、指導者の養成・確保、ジュニアから成年選手の育成・強化等、総合的な競技力向上対策を計画的に推進し、本県選手の育成・強化を図ります。
- ・ より一層の競技力向上を図るために、次世代を担う選手の発掘・育成・強化を図ります。
- ・ ジュニアから成年までの競技力向上を図るために、指導者の計画的な養成及び資質の向上を図り、競技団体ごとの一貫指導体制や、競技を越えた強化ネットワークを構築します。
- ・ 各競技団体と連携して、競技役員等を計画的に育成し、各競技会を円滑に運営します。

### (2) 総力を結集した「チームかごしま」

- ・ 各競技団体において監督、コーチ、スポーツドクター、トレーナー等の強化スタッフをシステム化し「チームかごしま」づくりの支援を行います。
- ・ 強化指定チーム・選手を対象に合宿や練習会等を実施し、技術・体力の向上はもとより、「チームかごしま」としての自覚と意欲を促し、一丸となって、鹿児島国体に臨みます。

### (3) 国体を契機とした継続的なスポーツ振興

- ・ 競技会場地市町村では、開催競技のスポーツ教室などを開催し、開催競技の普及・定着を図るとともに、地域の日常的なスポーツの場の提供に努め、スポーツを生かした地域づくりを推進します。
- ・ 多くの県民が気軽に参加できるスポーツ教室や体験教室などの各種スポーツイベントを実施し、それぞれの関心や適性に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを推進します。
- ・ 本県の温暖な気候等を生かし、県内外の競技者やチームのスポーツ合宿（スポーツキャンプ）を積極的に誘致し、競技力向上の環境づくりを推進します。

(4) 障害者スポーツの普及と環境整備

- ・ 国体と併せて、国内最大の障害者スポーツの祭典である「全国障害者スポーツ大会」を開催することにより、県民の障害者スポーツ活動への関心や理解を深めるとともに、障害者が興味・関心に応じてスポーツに親しむことのできる環境整備に努めます。

### 3 簡素・効率化を図る国体

---

(1) 既存施設等の有効活用

- ・ 競技施設は、県内の既存施設を活用することを基本とし、改修に当たっては、子どもから高齢者、障害者などにも配慮した整備を進めます。
- ・ 先催県や後催県等と連携を図り、共通して使用することが可能な設備、競技用具については、借用や共同購入を行うなど、経費の削減に努めます。

(2) 総合開会式・閉会式の創意工夫

- ・ 総合開会式・閉会式は、簡素な中にも、鹿児島のはららしさを感じることができ、参加する者同士の絆が深まる式典になるように創意工夫を凝らします。

(3) 幅広い募金活動の展開や民間企業とのタイアップ

- ・ オフィシャルスポンサー等の協賛企業による支援体制を充実させ、地元企業をはじめとした民間活力の導入に努めます。また、県民の理解と賛同による国体募金活動を推進します。

(4) ボランティアの協力

- ・ 総合開会式・閉会式や各競技会場での運営や案内業務などにおいて、県民にボランティアスタッフとしての協力を得ることとします。

(5) 全国障害者スポーツ大会の開催

- ・ 国体終了後に開催される全国障害者スポーツ大会について、施設整備、輸送交通、宿泊等の面で、国体開催と連動した準備・運営を行います。

## 4 鹿児島県の魅力を発信する国体

---

### (1) 心のこもったおもてなしや交流の促進

- ・ 県民一人一人が、郷土の自然環境、歴史・文化、食など鹿児島らしい魅力を再認識し、各競技会場地での「まごころ」のこもったおもてなしを行い、地域住民と参加選手をはじめとする来場者との交流を深め、鹿児島県の魅力の発信に努めます。
- ・ 本県選手団の応援はもとより、他都道府県応援団を組織し、鹿児島県国体に参加した選手全員を応援するなど、大会全体を盛り上げるとともに、県民のあたたかいおもてなしの心を全国に伝えます。

### (2) 広報活動の推進

- ・ インターネットやテレビ、ラジオ、新聞、情報誌、広報紙など様々なメディアを活用して広報活動を積極的かつ効果的に行い、県内外に鹿児島県国体の開催に向けた情報を発信します。

### (3) 観光関連団体等との連携

- ・ 観光関連団体等と連携して、地域の持つ豊かな自然・歴史・文化・食などの資源と鹿児島県国体の観戦をセットにした広域観光ルートの設定や観光キャンペーン、イベント等の実施を推進します。
- ・ 競技会場地市町村等の特産品の知名度アップと販売促進を図り、鹿児島県の魅力を全国にPRします。
- ・ 障害者団体等と連携して、競技会場等での授産製品の販売など、障害者がおもてなしに参加できる取組を推進します。

### (4) 文化プログラムの充実

- ・ 鹿児島県国体の文化プログラムとして、鹿児島県の誇る文化や伝統などをはじめとする文化・芸術に関する展示やイベント等を開催することにより、より多くの県民に鹿児島県国体参加への気運醸成を図るとともに、文化や芸術の魅力発信に努めます。

## 5 東京オリンピックイヤーにふさわしい国体

---

### (1) 鹿児島県選手の活躍・支援

- ・ 鹿児島国体へ向けた選手強化では、東京オリンピック出場やメダル獲得など、高い目標を持って取り組む選手を育てます。

### (2) 東京オリンピックとの連携

- ・ 東京オリンピック事前合宿の本県の競技会場地市町村等への招致に努め、県民の東京オリンピックや国体に対する気運の醸成を図ります。

### (3) 東京オリンピック選手の国体への出場や参加

- ・ 鹿児島国体において、東京オリンピックで活躍した選手の競技会への出場やスポーツイベント等への参加を促すことにより、県民にオリンピックの感動と興奮を伝えるとともに、直接、選手たちとふれあえる機会の提供に努めます。

### (4) 東京オリンピックの展示ブースの設置

- ・ 東京オリンピックの日本選手の活躍を伝える写真やウェア等を展示するなど、東京オリンピックの感動と興奮を伝えます。

## 第4章 「力みなぎる・かごしま」の実現に向けて

鹿児島国体は、東京オリンピックと同じ年に開催され、オリンピック効果により全国的にスポーツに対する関心が一層高まる中、国内最大のスポーツの祭典として、県民総参加のもと、鹿児島らしさを生かした国体として開催します。

スポーツは「する」ばかりではなく、「観る」、「支える」という立場からすべての人が関わることができます。県民の誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことにより、体力の向上や健康の保持増進はもとより、明るく豊かで活力のある生活の実現につながり、「スポーツ文化の浸透」を図ることができます。

また、スポーツ活動を通じて、青少年の健全育成を図るとともに、世代間や地域間の交流を促進することにより、スポーツを核とした新しい地域社会（コミュニティ）の構築による「地域の活性化」を図ることができます。

さらに、国体に向けた一貫した指導プログラム、各競技の特性や選手の発育・発達段階に応じた計画的な指導等を行い、本県のスポーツ選手が国体をはじめとする全国大会や国際大会で活躍することによって、県民に夢と感動と活力を与えます。選手には郷土の代表としての自覚と責任を育む「アスリートの発掘・育成・強化」を図ることができます。

東京オリンピックの感動と興奮を、鹿児島国体に引き継ぎ、オリンピック開催年にふさわしい内容となるよう努める必要があります。

鹿児島国体は、県民が夢と希望を持ち、心に残る大会を目指し、県民総参加のもと、鹿児島らしさを生かして開催することで、明るく豊かで「力みなぎる・かごしま」づくりの実現につながるよう、県民の英知と総力を結集して取り組んでまいります。